

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成19年7月19日(2007.7.19)

【公開番号】特開2001-213792(P2001-213792A)

【公開日】平成13年8月7日(2001.8.7)

【出願番号】特願2000-324977(P2000-324977)

【国際特許分類】

A 6 1 K 35/64 (2006.01)

A 2 3 L 1/076 (2006.01)

A 2 3 L 1/30 (2006.01)

A 6 1 K 8/96 (2006.01)

A 6 1 P 5/42 (2006.01)

A 6 1 P 5/46 (2006.01)

A 6 1 P 25/18 (2006.01)

A 6 1 P 25/20 (2006.01)

A 6 1 P 35/00 (2006.01)

A 6 1 P 43/00 (2006.01)

A 6 1 K 38/00 (2006.01)

C 0 7 K 14/435 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 35/64

A 2 3 L 1/076

A 2 3 L 1/30 A

A 6 1 K 7/00 K

A 6 1 P 5/42

A 6 1 P 5/46

A 6 1 P 25/18

A 6 1 P 25/20

A 6 1 P 35/00

A 6 1 P 43/00 1 1 1

A 6 1 K 37/02

C 0 7 K 14/435 Z N A

【手続補正書】

【提出日】平成19年6月1日(2007.6.1)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

ローヤルゼリーからなる、抗ストレス剤。

【請求項2】

前記ローヤルゼリーが、下記に示す、蛋白質を9重量%以上含有するものであることを特徴とする、請求項1に記載の抗ストレス剤。

1)還元条件下でのSDS-ポリアクリルアミドゲル電気泳動により測定される分子量が約57キロダルトンである。

2)配列番号1のアミノ酸番号1～8のアミノ酸配列を含む。

【請求項 3】

請求項 1 項又は 2 項に記載の抗ストレス剤を含有することを特徴とする、抗ストレス用組成物。

【請求項 4】

食品、化粧品又は医薬品であることを特徴とする、請求項 3 項に記載の抗ストレス用組成物。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0003

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0003】

一方、ローヤルゼリーは、滋養強壮作用を有する素材として知られており、これを主成分とした健康食品などが広く販売されているが、その生理活性の本体全てが未だ決定されておらず、その為、その生理活性には、ロット差が大きく、活性値としてコントロールされていないのが現状であった。これは生理活性本体が未だ突き止め切れていないためである。又、ローヤルゼリー中に、1)還元条件下での SDS-ポリアクリルアミドゲル電気泳動により測定される分子量が約 57 キロダルトンである、2)配列番号 1 のアミノ酸番号 1～8 のアミノ酸配列を含む蛋白を含有していることも、該蛋白がローヤルゼリーの生理活性の中で、抗ストレス作用の活性成分であることも全く知られていなかった。又、ローヤルゼリーが、副腎皮質に作用しコルチゾールの分泌をコントロールすることも知られておらず、これに起因する抗ストレス作用を有することも知られていなかった。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0005

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0005】

【課題の解決手段】

この様な状況に鑑みて、本発明者らは鋭意研究努力を重ねた結果、ローヤルゼリーが血中コルチゾール産生抑制作用を有し、その活性本体が次の特性を有するの蛋白質であることを見出し、発明を完成させるに至った。即ち、その蛋白とは、1)還元条件下での SDS-ポリアクリルアミドゲル電気泳動により測定される分子量が約 57 キロダルトンである、2)配列番号 1 のアミノ酸番号 1～8 のアミノ酸配列を含むものである。この蛋白について、以後、単に「57 キロダルトンの蛋白」或いは「分子量 57 キロダルトンの蛋白」と表現することがある。以下、本発明について、実施の形態を中心に更に詳細に説明を加える。